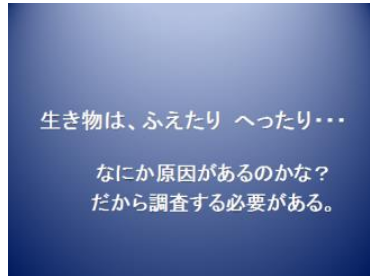


【松下・教員フェロー】「タナゴの生態調査-外来種の影響を探る」

東京都三鷹市立高山小学校 理科教諭 松川 裕代

①調査での気づき

本校では、5年生で玉川上水と井の頭池の水生物調査、6年で近くの雑木林でピットホールトラップによる生き物調査を毎年、実施している背景がある。「ため池」と「井の頭池」の調査は、場所の様子や調査方法が似ている。他地域の生き物調査の様子を児童に知らせることで、自分たちの地域をより深く知るきっかけになると考えた。



②調査内容で得た知識を応用した授業実施の概要

パワーポイントでタナゴ調査の意味、方法を調査時に撮影した写真を使って紹介した。「なぜタナゴがへったのか」、「へらないようにどうしたらいいのだろう?」と子供たちと話し合いながら授業をすすめた。(5年3クラス、6年3クラス 計6クラス実施)

③授業実施時の子供たちの反応や感想

作成したパワーポイント(抜粋)	児童の考え・話し合いから(抜粋)
	<p>タナゴがへったのは、なぜだと思う?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間がゴミや廃水で水をきたなくしたから ・タナゴを取りすぎた。 ・外来種がふえて食べられてしまった。 ・田んぼが少なくなって、ため池がへった?
	<p>タナゴがへらないようにどうしたらいいだろう?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラ、立ち入り禁止の立札等を作ってマニア対策をする。 ・ブラックバス等の外来魚を駆除する。 ・敵のいない所でタナゴを育て放流する。 ・かいほりをする。
	<p>それだけでいいか? (他に方法はないか?)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいところにタナゴの世界を作る ・水族館で保護する。 ・食物連鎖を考える ・他の在来種や生き物や水草のことも考える。(全部生きられる環境づくり) ・ため池を守り、保護する



- ・井の頭池と離れた場所であるのに、岩手で同じ様にブラックバス等の外来魚の問題のあることに児童の驚きがあった。
- ・岩手では、ため池を手入れすること、こちらでは、雑木林を手入れすることで生物が豊かになっていくことに気付く児童がいた。
- ・ため池の生物調査結果から、食物連鎖で繋がりが合って生き物が生きていることに気付く児童も多かった。
- ・井の頭池「かいほり」後、生き物の推移がどうなるかにも関心が高まった。

④授業を実施してみた感想

今回の調査の様子を伝えたことで、地域の学習が地域だけに留まらず、より大きな視点で児童の考えを広げることができ、有意義な学習となり大変良かった。

⑤今後の授業に本調査をどう生かしていくか。

児童は、調査報告より学んだことを生かし、自分たちが地域でできる事を考え始めている。「ポスターをかく」「よびかけをする」「ゴミを捨てない」「生き物を捨てない」などの意見が出ている。子供たちの考えを行動へと結びつける学習を引き続きやっていく。

